

番号	学校名	指定期間
27-10	昭和学園高等学校	27～31

平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	<p>社会人基礎力を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成</p> <p>－ 5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポート －</p>						
2 研究の概要	<p>地域社会に貢献できる看護師とは、「社会人基礎力」が備わった状態と考える。経済産業省の「社会人基礎力」は、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の3つの能力（12の能力要素）から構成されている。本校では、倫理性を加えた13の能力要素の育成を目指す。</p> <p>5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長を願い、「社会人基礎力」を育成するための3本柱の整理を行い、今年度高校課程では「豊かな人間性」と「課題解決能力」の育成、そして専攻科ではそれらの能力を活用し、継続して健康教育を行うことを通して、地域の健康の保持増進に寄与する能力と態度「社会参画力」を育成するよう改め、様々な取組を行った。</p> <p>－育成する人材像／目標－</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多様性を理解し、看護倫理・コミュニケーション能力・人権を尊重する態度を育成する。 2) 主体的・対話的で深い学びにより課題解決につながる思考力と実践力を育成する。 3) 地域住民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育成する。 						
3 平成29年度実施規模	看護学科を対象として実施した						
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1年次</td> <td> <p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流 b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流 c 人権教育</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育 c 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 特別活動 b ボランティア活動 c 社会人基礎力調査・生活習慣調査</p> </td> </tr> <tr> <td>第2年次</td> <td> <p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 b 異学年交流 c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a アクティブラーニング b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 調査 b 5年 キャリア講座 c ボランティア活動 d 健康教育</p> </td> </tr> <tr> <td>第3年次</td> <td> <p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 b 異学年交流 c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 主体的・対話的で深い学び b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会参画力】</p> <p>a プレゼンテーション講座 b 健康教育</p> </td> </tr> </tbody> </table>	第1年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流 b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流 c 人権教育</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育 c 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 特別活動 b ボランティア活動 c 社会人基礎力調査・生活習慣調査</p>	第2年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 b 異学年交流 c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a アクティブラーニング b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 調査 b 5年 キャリア講座 c ボランティア活動 d 健康教育</p>	第3年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 b 異学年交流 c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 主体的・対話的で深い学び b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会参画力】</p> <p>a プレゼンテーション講座 b 健康教育</p>
第1年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流 b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流 c 人権教育</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育 c 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 特別活動 b ボランティア活動 c 社会人基礎力調査・生活習慣調査</p>						
第2年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 b 異学年交流 c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a アクティブラーニング b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 調査 b 5年 キャリア講座 c ボランティア活動 d 健康教育</p>						
第3年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 b 異学年交流 c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 主体的・対話的で深い学び b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会参画力】</p> <p>a プレゼンテーション講座 b 健康教育</p>						

第4年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流</p> <p>① 1～3年交流会及び縦割り班によるグループ活動 ② ナイチンゲール生誕祭</p> <p>③ 1・3年実習前交流会 ④ 5年助言による1年他クラスへの手洗い指導実施</p> <p>⑤ APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>① APU 国際学生との交流 ② APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 主体的・対話的で深い学び</p> <p>① 主体的・対話的な学習活動（1～5年）</p> <p style="padding-left: 2em;">*協同学習やICTを活用した授業の実施</p> <p>② 講義 5月 1年生：「仲間と共に伸びる学び方」安永 悟先生</p> <p style="padding-left: 2em;">7月23日 研究授業及び教員研修（安永先生授業参観後、研修）</p> <p>b 特別講義</p> <p>1年① 7月 看護専門職の話を聴く会（保健師・助産師・看護師）</p> <p style="padding-left: 2em;">② 10月 感染管理認定看護師による特別講義</p> <p>2年 9月 皮膚・排泄ケア認定看護師による特別講義</p> <p>3年 9月 摂食・嚥下障害看護認定看護師による特別講義</p> <p>【社会参画力】</p> <p>a プレゼンテーション講座</p> <p>b 4年運動推進活動</p> <p>① 運動に関する講演及び実技指導</p> <p>② ウォーキング&スロージョギング教室開催 ③ まとめの発表会</p> <p>c 5年臨地実習、教育学演習、近隣寺院における健康教育</p>
第5年次	<p>前年度成果の改善実施</p> <p>健康ひた21計画にそった運動推進活動継続</p> <p>大分県・日田市との連携、日田市健康福祉祭り協力</p> <p>在宅認知症高齢者オレンジカフェ日田への協力ー福祉科との連携</p>

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

○平成29年度の教育課程の内容（平成29年度教育課程表を含めること）

《基礎看護》

	期日	学年	科目（時間）	内容
高校	4月	1年	基礎看護技術／環境の調整	協同学習 グループワーク
	7月	2年	臨床看護概論／病院・施設における看護	協同学習
	9月	3年	基礎看護技術／与薬の技術（皮下注射）	演習 タブレット撮影
	10月	2年	臨床看護概論／在宅における看護	協同学習
	11月	2年	基礎看護技術／無菌操作	演習 タブレット撮影
専攻科	5～7月	4年	看護学概論／白血病患者の看護	事例による看護過程の展開
	5月	4年	基礎看護学技術／薬物療法 点滴静脈内注射、採血	演習（シミュレーション）
	6月	4年	基礎看護学技術／経管栄養チューブ挿入	演習 タブレット撮影

《健康教育》

専攻科	9～11月	5年	教育学／生涯学習	日田市高齢者教室に参加し健康教育実施 事前にビデオ撮影し、改善後実施
	5月	4年	成人看護学概論（1） 老年看護学概論（1）	講義／健康日本21 西部保健所地域保健課長
	5月	4・5年	体育（2）	講演／運動に関する講演及びスロージョギング 九州大谷短期大学 永山先生
	5月	4年	老年看護学概論（2）	講演／健康ひた21 日田市健康保険課保健師
	6月	4年	情報（2）	講義／動画作成 情報科教員
	7月～	4年	体育（4）、情報処理（8） HR（5）	ウォーキングコース体験、運動推進活動、動画 作成
	9月	4年	情報（2）	運動推進活動クラス発表会（代表選出）
	11月	4・5年	（学園祭）	健康教育の取組や運動推進活動について発表
	11月	4年		運動推進活動発表会

○具体的な研究事項・活動内容

【豊かな人間性】

- ・ 1～5年 ナイチンゲール生誕祭・講演：「今を生きる」藤井 輝明 氏（5月12日）
- ・ 1～3年交流会（6月6日）及び縦割り班活動（10月24日）
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生との交流（7月12日）
- ・ 1年生臨地実習前に3年から身だしなみチェックを受ける（9月5日）
- ・ 校父母祭法要・講演：織田頭祐 氏「こころの方向転回」（10月27日）・宗教の授業（4月～2月）
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生を招待しての交流（11月8日）
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生との交流の学びを5年生に発表（12月5日）
- ・ 5年助言による1年他クラスへ手洗い指導（12月6日）

【課題解決能力】

- ・ 主体的・対話的で深い学び
 - ①主体的・対話的な学習活動（1～5年）
 - ICT活用についての校内教員研修（5月18日）
 - ②講義 1年生「仲間と共に伸びる学び方」（5月11日）久留米大学文学部教授 安永 悟 先生
研究授業及び教員研修（11月9日）安永 悟 先生 授業参観後、研修「協同学習」
- ・ 特別講義
 - ①2年 基礎看護「皮膚の構造・機能をふまえた清潔援助、清潔ケア」（9月15日）
大分県済生会日田病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 馬野 美紀 様
 - ②3年 基礎看護「食事介助や口腔ケアの援助について」（9月21日）
JCHO 湯布院病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 木本 ちはる 様
 - ③1年 看護専門職の話を聴く会（保健師・助産師・認定看護師など5名）（10月12日）
 - ④1年 基礎看護「感染予防について～正しく覚えて実践しよう～」（10月24日）
大分県済生会日田病院 感染管理認定看護師 森山 由香 様

【社会参画力】

- ・ 4・5年 プレゼンテーション講座 高嶋 和代 様（5月11日、9月5日）
- ・ 健康教育
 - ①運動に関する講 演及び実技指導
 - 4・5年 九州大谷短期大学 永山 寛 先生（5月20日）
 - 3・4年 日本スロージョギング協会 栗山 緑 先生（6月2日）
 - ②4年 運動推進活動

日田弁版ラジオ体操音源制作及び動画作成、ウォーキングコース体験及び動画作成、
日田弁版ラジオ体操動画・ウォーキングコース紹介動画発表会（11月16日）

③5年 臨地実習／日田市役所、教育学演習／咸宜大学（日田市高齢者教室）における健康教育

④5年 近隣寺院における健康教育（9月23日）

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

学校ホームページで活動状況を随時掲載している。全国看護高校研究協議大会や産業教育フェア、学園祭でSPH成果発表を行った。本校のSPH中間発表・運動推進活動発表会について、九州内の看護高校やSPH指定校、市内の学校や住民などに案内し、県外からも参加者があった。日田弁版ラジオ体操CDは、希望が多く市内の小中学校や実習施設及び希望団体に配布し、地域行事や小中学校の運動会等で活用された。保健所や日田市と連携して取り組み、マスコミ等にも積極的に情報発信を行った。テレビや新聞、行事への出演依頼を受けることも多く、大分県の広報番組OBS「オオイタコレクション」でも日田弁版ラジオ体操について放送があり更にCDや動画の希望が出た。

○実施による効果とその評価

【豊かな人間性】

ナイチンゲール生誕祭は、4段階評価のアンケートで「3」以上は「主体性」「自己肯定力」「倫理性」で9割を超え、効果的な行事といえる。学生発表は各学年の状況を表わした内容で全生徒に良い刺激となっている。講演会の感想では自身を深く考えさせられ、前向きに自分の夢について考えることができたなど、意欲を高める良い機会であると考えられる。

校父母祭を毎年経験し、感謝の気持ちや生命や死について考え、自己理解と他者を尊重した態度が涵養されているといえる。宗教授業や宗教行事等で学年進行にともなって浸透し心の成長に関係していることが推察された。

異学年交流は、3学年縦割り班で学園祭モザイク画の合同制作などの活動を行った。下級生は、不安の軽減につながっていることがアンケートから推察される。実習前の交流では、上級生の助言を受け実習に活かし、上級生は自身の気持ちや実習前の緊張感を改めて考える良い機会となっている。1年生が5年生の助言を受け他クラスへ手洗い指導を行った。5年生の助言を素直に受け、改善して実施に臨んだが、相手にわかるように伝える事の難しさを実感したようである。日々の授業の受け方を振り返ることにもつながっている。

APU国際学生との交流では、国際学生が目的をしっかりと持っている事を知り、改めて自分を振り返るきっかけになっている。自身のコミュニケーション力不足を実感し、英語を学ぶ必要性を感じる生徒が多かった。各国について、実際にその国の人と話し今までと違った印象を受けたなど、視野を広く持つ事につながっている。世界を見据えた人間的にも大きな広い心を持った看護師になりたいと決意を新たにした生徒が多かった。この交流の成果は大きいと思われる。またその学びを5年生に発表したが、発表前に交流のまとめと共にその国の医療・生活状況をインターネットなどで情報を集め、それも加えてスライドに作成し発表した。よく情報収集できていて、日本との生活や文化の相違点を知ることができた等の感想があり、多様性を知ることにつながったと考える。

【課題解決能力】

今年度は、主体的・対話的で深い学びになるよう活動性の高い授業に取り組んだ。久留米大学 安永 悟 先生から協同学習について研修、さらにICT研修で学びを深めて授業を実践した。生徒は、タブレット活用で「振り返りが出来る。自分が出来ていない所を客観的に見ることが出来る。」やグループ学習では「グループで話し合うことで課題が見つかる。」等の意見があった。

授業アンケートでは、「授業中考えて取り組む。考えを進んで言う。調べて分かって努力する。」の項目は8割以上の生徒が「あてはまる」と答えており、授業に対する学ぶ姿勢や取組は高いと言える。しかし、事前等の自主学習は6割に留まり、他と比較して低い結果である。後半には漸増しているが、更に取組が必要と考える。また、教員は、主体的な授業になるよう取り組み、「話す

力や聴く力、考える力」が身についたと効果を実感している反面、主体的・対話的な授業になっているか疑問に感じることも多い。グループ活動の場面が増え、学びが深まりその有効性を感じているが、能動的な学習になっているのか見直していかなければならないと感じている。

身についた力について、4段階評価のアンケート結果で「とてもあてはまる・ややあてはまる」が「課題発見力」は85.1% (80.8)、「計画力・創造力」は、74.9% (69.2)であった。(昨年度)

特別講義では、1～3年生を対象に実習病院や地域で活躍している認定看護師から講義を受けた。高校の早い段階から専門的な知識や技術をもつ看護専門職から講義を受けることで、学習意欲の向上、将来の目標を意識することにつながっている。また、認定看護師に興味をもつ生徒の割合も増えた。全ての特別講義で内容の理解度は高く、今後の授業や実習につなげることができると答えている。臨地実習後に追調査し、特別講義の学びが実習で深められていることを確認していく。特別講義および研修ともに有意義なものであり今後も継続して行っていきたい。

【社会参画力】

効果的なプレゼンテーション技術を学ぶ為、学年ごとに「プレゼンテーション講座」を受講した。開始前、「人前で話すことが苦手」「まとめて話すのが苦手」「主語が抜けて上手く伝わらない」「自分に自信がない」等の理由で「他者に対して効果的に自分の考えを伝えることができるか」について、どちらとも言えない・できないと答えた学生が4年91.4%、5年42.6%だった。講座では、講師自らの実演、グループワークや発表もあり、主体的に参加し自ら学ぼうとする姿も多く見られた。講座終了後には、両学年共に全員が「他者に対して効果的に自分の考えを伝えるために注意する点が理解できた」、また9割以上の学生が「実行できそう」と答えた。更に、4年は運動推進活動終了後、5年は健康教育実施後に7割の学生は「プレゼンテーション講座で学んだことを活かすことができた」と評価した。他者評価においても「発表内容が理解できた」と答えた人は、4年に対して一般参加者87.9%、5年に対して高齢者教室参加者80%だった。効果的なプレゼンテーション技術を学習する企画は有効であったと考える。

4年の運動推進活動や5年の健康教育は、机上の学習で気付いた問題点に対して、学生なりに対策を考えグループごとに取り組んだ。自分の考えを伝えることが苦手な学生が多い中、約半年間のグループ活動は、社会人基礎力のチームで働く力を高める機会になっている。また、「動画を見てウォーキングコースに興味を持ってもらいたい」「自分達の活動で、災害後の元気な日田をアピールしたい」等の意見があり、地域への関心が高まっていると考える。そして、住民からは、「学生さんがせっかく考えてくれたので、自分達も頑張ります」等肯定的な意見を聞くことが多い。この活動は、運動習慣改善までは至っていないが、刺激になっていると考える。そして、住民の反応は、学生の励みとなりやる気につながっている。地域の現状に目を向け取り組む活動は、社会参画力の育成に有効であると考え。更に住民を巻き込んで一緒に運動推進活動を行っていきたい。

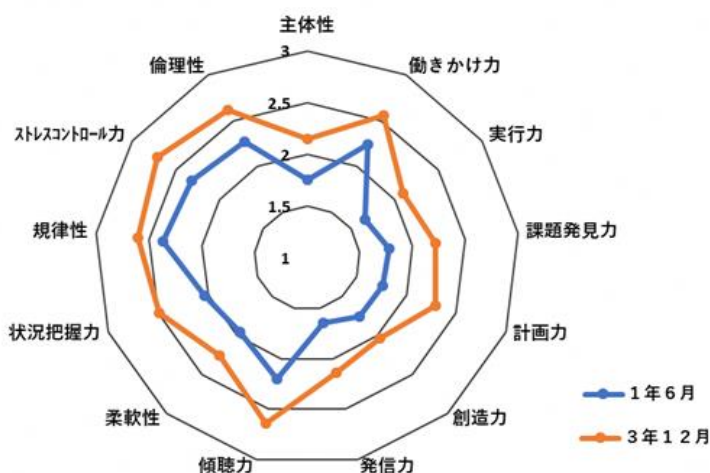
【全体評価】

平成30年1月、文部科学省「SPH事業における共通的な評価指標」による質問紙調査では、9割近くの生徒が、様々な取組により授業や実習等に主体的に取り組む意欲、課題解決力、知識・技術の習得、職業観の変化に効果があったとした。また8割以上の保護者がSPH事業について生徒の変化、全体評価、地域活性化に効果があったとした。さらに8割以上の教職員がSPH事業により生徒や教員、学校全体の変化があったとした。ターゲット学年である3年生の同調査結果によると、生徒は授業や実習への積極的な取組と学ぶ意欲の高まりについて、「思う」は13.1% (5.1%)、「どちらかといえば思う」は73.8% (72.9%)、8割以上が積極的に取り組み意欲が向上したと意識していた。また、「思わない」または「どちらかといえば思わない」と答えた割合も前年度は22%であったが、今年度は13.1%に減少した。〔()は前年度〕これは、高校での最上学年となり異学年活動でリーダーをする事で自覚が芽生え、下級生の姿から自分を振り返る機会となり全体的に意識が高まったと考える。臨地実習でのチームワークや異年齢の人との対話等、各自で立ち向かう機会も向上に結びついたと考える。また、「目標を達成させるために有効な活動は何か」についての問いに、

特別講義やナイチンゲール生誕祭が上位を占めていた。実際の看護職者から講義を受けたり他学年の発表を聴講することで、将来を想像しやすく役割モデルの獲得や目標の確認が出来て、職業への意識を高めるきっかけになり意欲向上につながったと考える。

また、3年生に事業開始前(1年6月)と終了後(3年12月)に本校が目指す社会人基礎力能力要素(13の能力要素)について自己評価を求めた。そして、SPH事業開始前後の変化を検討するためにt検定を行った。その結果、全ての項目において1年次より3年次の方が有意に高い得点となった。(主体性・実行力・課題発見力・計画力・発信力・状況把握力・ストレスコントロール力・倫理性の8項目は $p < .001$ 、働きかけ力・傾聴力・柔軟性の3項目は $p < .01$ 、創造力・規律性の2項目は $p < .05$)

対象学年の1年次と3年次の社会人基礎力の比較



社会人基礎力を高めるために取り組んだSPH活動は生徒の成長につながっていると考える。

また、3年看護学科と3年普通科生徒の2年次6月と3年次12月の自己評価を比較した。両学科共に3年次の方が平均点が上昇し、生徒達はできる様になったと評価していた。豊かな人間性で育みたい「主体性、働きかけ力、実行力、倫理性」は、両学科共に有意に高くなっている。看護学科ではナイチンゲール生誕祭やA P U国際学生との交流、また全校で行う宗教授業や校父母祭法要等の宗教行事があり、これらの効果で両学科ともに上昇していると考え。しかし、課題解決能力で育みたい「課題発見力、計画力、創造力」は、看護学科は普通科に比べ点数が低い。また普通科は3項目共に有意差があるが、看護学科は計画力に有意差がない。協同学習やICT活用により、授業に臨む態度は変化しできたと評価する生徒は多い。しかし、学校生活全体を振り返ると、他に比べると点数は低い。継続して、授業の工夫や様々な活動を通して、学生の課題解決能力を高める取組が必要である。社会参画力で育みたい「発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力」は、3年次点数が伸びているが傾聴力と柔軟性は有意差がない。

卒業生の社会人基礎力調査では、就職した現在、規律性や傾聴力・倫理性が高い。社会人としてのルールや服装・言葉遣い等に注意し、人との約束を守る努力、患者・家族の話を聴き理解しようと心掛けていると考える。管理者評価を含め低い項目は、創造力・発信力である。就職1年目では、多重課題に戸惑い臨機応変な対応は困難と考える。更にできないことを周囲に相談できず一人で悩んでしまうことも多い。この時期を乗り越えるためには、学生時代に、基礎学力向上や困難に立ち向かい乗り越える力を培うことが重要と考える。

次年度も両調査を実施し、SPH事業の有効性について検証したい。

○実施上の問題点と今後の課題

豊かな人間性、課題解決能力、社会参画力の3つの柱で社会人基礎力育成の取組を継続していく。

SPH事業実施後のアンケート調査において、大半が有効とする中で「SPHの時間が無駄」「勉強時間が削られ大変」等と記す学生が一部いた。これらの学生は、SPH活動の目的が理解できておらず、机上の勉強優先、国家試験合格が目標になっている様に感じる。国家試験合格は、キャリアを積む上で通過点であり、ゴールではない。看護師として働く時に臨床現場でどんな力が求められるのか、故に今自分は何を身につけなければいけないかと考えることが必要である。また、生徒学生にわかるように示すことが必要と考える。さらに、各取組の前には目的や目標を確認し意識して取り組むよう促し、実施後には、アンケート結果を生徒学生にフィードバックし、成果と課題を各自が自覚できるようなくみが必要と考えている。